



きよ し もんりんかくせいがい は もんようきんかんえん
鋸歯文輪郭青海波文様錦莞莚

おか やま いぐさせいひん
岡山を代表する特産品だった藺草製品のルーツを知ろう。

かつて早島町では、干拓でひらかれた大地に藺草を植え、畳表を作りました。
それらは、大坂や江戸に出荷され早島表として全国に知られていました。
明治になると磯崎眠亀の考案した「錦莞莚」を皮切りに藺草を染色し美しい模様を織る「花ござ」も作るよう
になりました。
こうした花ござは、やがて主要な貿易品の一つとしてアメリカなどに輸出され日本の近代化を支えました。
当館では、これらの藺草と藺草製品を中心に様々な資料や加工の工程、織機などの道具を展示しています。

しせつ
◆ 施設のおすすめ

昭和30年代の最盛期の様子を窺い知ることのできる作業風景の写真や、藺草を加工する工程を順に見ることが
でき、時代によって進化していった織機の変遷もたどることができます。

また、様々な種類の花莚を一度に見ることができるのも特徴です。

その中の一つである、磯崎眠亀により制作された「錦莞莚」は藺草とは思えないほど細かい模様で織り上げられ
ており、町指定重要文化財になっています。

7月に催される「花ござまつり」では、多種多様な藺草製品の販売が行われ、花ござ手織りと本置の実演が見られ
るほかミニ機での製作体験もできます。

こ
◆ 子どもたちへのメッセージ

かつて日本一を誇っていた岡山の藺草産業は、畳やござを用いる日本独自の生活文化を支えてきました。今の豊
かさは藺草によってもたらされたといっても過言ではありません。

それだけ栄えた藺草産業も今では縮小してしまいましたが、そういった歴史を忘れないように学ぶことで、次の
世代にも伝えていってほしいです。



てんじつ
展示室の様子



いぐさかこうこうてい
藺草加工工程



かえんたてき
花莚立機



ぎぬまきもんかえん
絹巻紋花莚



ゆじつようかえん
輸出用花莚



なせんどうぐ なせんかえん
捺染道具・捺染花莚